

2 かさんの「MFJ 全日本エンデューロ選手権シリーズ第5戦 北海道ルスツ 2DAYS ED」

「北海道エンデューロ選手権第5戦・第6戦」観戦レポート（後編）

—2022.9.17～9.18 BIGBEAR—



先日行われた「MFJ 全日本エンデューロ選手権シリーズ第5戦 北海道ルスツ 2DAYS エンデューロ」、「北海道エンデューロ選手権第5戦・第6戦」観戦レポートの後編です。

今回は全日本大会に参加した道内ライダー達の活躍ぶりを紹介しながら、次回10月9日(日)に栗丘で開催される全道戦（最終戦）の見所を探ってみたいと思います。

<全日本エンデューロ選手権で道内ライダーが大活躍！！>

9月17日、18日にルスツで行われた全日本エンデューロ選手権には、全国から83台の参加がありましたが、そのうち公認クラスの道内からの参加は32台でした。

● I Aクラス

I Aクラスは全17台のうち道内から2台が参加しました。13 沼田誠司選手は二日間の総合で10位、30 馬場崇行選手は8位と好成績を残しました。



↑ 13 沼田誠司選手



30 馬場崇行選手

● I Bクラス

I Bクラスは全22台のうち半数の11台が道内からの参加でした。

このクラスでは全国のライダー達を相手に153 砂田彰選手が大活躍。二日間のレースで総合優勝しました。

ほかにも116 伊藤智也選手が4位、135 菊池領選手が6位と道内ライダーが好成績を残しました。



↑ 砂田彰選手



↑ 伊藤智也選手



↑ 菊池領選手

●NAクラス

NAクラスは全10台のうち4台が道内からの参加でした。二日間のレースで319 齋藤俊輔選手が4位、333 嵐口哲也選手が6位、318 沖中祐輔選手が8位と好成績を残しました。

331 吾田誠選手は取り替えたばかりのチェーンがレース中に切れるというアクシデントで1日目はDNF。

2日目はサトヒル横の側溝に突っ込んで時間をロスして大きく順位を落としました。



↑ 齋藤俊輔選手



↑ 嵐口哲也選手



↑ 沖中祐輔選手

●NBクラス

参加台数が一番多かったNBクラスは、全29台のうち半数を超える15台が道内からの参加でした。ここでも道内勢が大活躍。なんと544 羽田真吾選手が二日間のレースで総合優勝し、ほかにも408 齋藤佑輔選手が4位、419 村上卓弥選手が5位、541 林亮太選手が6位、549 高見智代選手が9位と好成績でした。



← 羽田真吾選手



↑ 齋藤佑輔選手



↑ 村上卓弥選手



↑ 林亮太選手



↑ 高見智代選手

<最終戦がますます面白くなってきた!!>

全日本エンデューロ選手権は公道を使用するため、参加車両は保安部品やナンバー付の車両でなければ参加することが出来ません。それゆえ今回のレースでは、普段、公道仕様車で全道戦を戦っているライダーにとっては、ナンバーが取得できないレーサーで参加しているライダーとのポイント差を縮める（広げる）には絶好のチャンスとなります。（もちろん全日本のレースに見合ったスキルを持っていることが前提での話です。）

今回のルスツでの道内勢の活躍ぶりをこれまでのレース結果に加えて分析すると、全道戦（最終戦）でのポイント争い、つまり次期シーズンに向けた各クラスの昇格争いが、ますます面白くなってきたことが伺えます。

● I Bクラスは同じ MX チームの師匠と弟子の一騎打ち！！（I A昇格枠 1）



I Bクラスでは、現時点で 116 伊藤智也選手が有効ポイント 106 を確保し、ポイントランキングのトップを確保しています。

一方、今回ルスツの全日本戦で総合優勝した 153 砂田彰選手は、今回 45 ポイントを獲得し、現在の有効ポイントは 91 となりました。



また、ポイントランキング 3 番手にいる 135 菊池領選手は、今回の全日本で 6 位と健闘し、現在 72 ポイントを保持しています。

ポイントランキング上位 3 人を比較すると、菊池選手は仮に最終戦で優勝したとしても獲得ポイントが 90



(72 - 7 + 25) にしかならず、現在、伊藤選手が所持している 106 ポイントには及びません。

このような状況からすると、最終戦は同じ MX チームでの師弟同士の対決。師匠の砂田彰選手とその弟子の伊藤智也選手との一騎打ちとなるようです！！

今のところ、トップの伊藤選手と 2 番手の砂田選手との差は15ポイント離れているので、伊藤選手は楽勝であろう…と思われがちですが、全7ラウンドのうち上位5ラウンドのポイント数で順位を決めるMFJのルールに当てはめると、そう単純ではないことが見えてきます。

それぞれの立場で整理してみると、現時点で伊藤選手は106ポイントを獲得していますが、最終戦で優勝か準優勝しなければ、現時点でのポイント数は106のまま変わりません。

一方、砂田選手のポイント数は現在91ポイントですが、仮に最終戦で優勝すると25ポイントを獲得し、伊藤選手と同じ106ポイント(91-10+25)になります。

MFJのランキング決定基準では、「①集計ポイントが同ポイントの場合は、上位入賞回数が多い選手を優位とする。」「②さらに同点の場合は最終戦結果上位のものを上位とする。」となっています。

今年のこれまでの両者の成績を整理すると、過去6戦で、優勝回数は共に2回ずつです。

順位	名前	ポイント	順位	名前	ポイント
1	伊藤 洋	106	2	砂田 大智	91
3	佐野 大	50	4	藤田 大	45
5	大塚 健	35	6	山本 隆	30
7	山本 隆	25	8	山本 隆	20
9	山本 隆	15	10	山本 隆	10

順位	名前	ポイント	順位	名前	ポイント
1	伊藤 洋	106	2	砂田 大智	116
3	佐野 大	50	4	藤田 大	45
5	大塚 健	35	6	山本 隆	30
7	山本 隆	25	8	山本 隆	20
9	山本 隆	15	10	山本 隆	10

仮に今回、砂田選手が優勝(3回目)し、有効ポイントが106になると、両者同点で優勝回数の関係から砂田選手の方が有利になります。つまり砂田選手がIA昇格を果たすには最終戦で優勝し、伊藤選手が3位以下の結果となるしかありません。一方、伊藤選手は最終戦で優勝するか、最低でも準優勝して20ポイントを獲得しなければ、3位以下ではポイントを稼げず上位入賞回数の差でトップが逆転してしまう可能性があります。

伊藤選手にとっては、いくら師匠といえども今回ばかりは砂田選手には絶対に負けられない一戦となります。ルスツで勢いづいた砂田選手がマシントラブル無しで完走・優勝しチャンピオンになるのか？ それとも伊藤選手が砂田選手を振り切りってチャンピオンになるのか？ 最終戦の二人の戦いぶりを見るのが俄然楽しみになってきましたね！！

●NA クラスは昇格枠の3番手争いが見所！！（IB昇格枠3）

このクラスには目下、4戦で77ポイントを獲得してトップを走っている330佐藤雄一選手、3番手には3戦しか出ていませんが、3戦とも優勝し75ポイントを獲得している329逸見選手がいます。

両者ともこれまで参加したレースでは、常に安定した走りで上位入賞し、出場回数も少ないところを見ると、余裕さえ感じられます。おそらく最終戦に出れば、次期IBクラスへの昇格の可能性は相当高いと思われます。



自分が目下注目しているのは、この二人を除く333嵐口哲也選手、331吾田誠選手、319齋藤俊輔選手ら3人の昇格争いです。

これまでの各者の獲得ポイントを整理すると、嵐口選手が76ポイントで2番手、吾田選手が72ポイントで4番手、齋藤選手が62ポイントで5番手にいます。



3人とも6戦全戦出場しているので、そのうち上位4戦の成績で整理すると、嵐口選手が65ポイント、吾田選手が63ポイント、齋藤選手が51ポイントとなります。嵐口選手と吾田選手との差は2ポイントしかありません。実に微妙な差ですね！！



最終戦ではこの両者の戦いぶりがどんな展開を見せるのか？
そして齋藤選手がこの二人にどう絡んでくるのか？
見るのがとても楽しみになってきましたね！！

●NB クラスは残り3つの昇格枠争いが見所！！（NA昇格枠6）



激戦の NB クラスは今回の全日本のレース結果から、目下ポイントランキング1番手の544羽田真吾選手、2番手の408齊藤佑輔選手、3番手の高見智代選手ら上位3人の昇格が確定したと思われます。（あくまで私の試算です。）



昇格枠6枠を狙えるポイントランキングの成績において、現時点の上位6人（道内選手）以外で一番近い範囲にいるのは、7番手で42ポイントを獲得している419村上卓弥選手と、10番手で36ポイントを獲得している熊谷選手です。



仮に両者のうちどちらかが最終戦で優勝したとしても、村上選手が60ポイント、熊谷選手が61ポイントとなり、現時点で3位の高見選手のポイントに達することが出来ません。つまり現時点で上位にいる3人は、最終戦で6番手までの順位の入替えはあるものの、既に昇格が確定していることとなります。



最終戦では、残る3つの昇格枠を狙って、現時点で4番手59ポイントの453中島英二選手、5番手で53ポイントの546荻野鉄平選手、6番手で45ポイントの石原信選手、7番手で42ポイントの419村上卓弥選手、10番手で36ポイントの熊谷成哉選手ら、5人による熾烈な戦いが繰り

広げられそうです。今年最後となる全道戦、各選手とも怪我なく全力を出し切って頑張ってもらいたいですね！！

■ 次回のレース！！

次回は10月9日（日）に今年度の最終戦となる「MFJ 北海道エンデューロ選手権 第6戦 栗丘大会」が岩見沢市の栗丘ライディングパークで開催されます。皆さん、是非、会場でお会いしましょう(^_^) BY 2か

● 2かのフォトギャラリー

J E C ルスツ 2DAYS ED その1 <https://photos.app.goo.gl/JhnwXY1B5oJFNiWV7>

J E C ルスツ 2DAYS ED その2 <https://photos.app.goo.gl/MFPHA2JXPLCYHJVz5>

J E C ルスツ 2DAYS ED その3 <https://photos.app.goo.gl/96PLD2tCdEvRFYbx6>

● リザルト

https://www.wsresult.com/Results/2022/20220918_01/

● MFJ 北海道 ED ポイントランキング

<https://www.mfj.or.jp/wp-content/uploads/2022/01/hokkaido-2022EDranking0921.pdf>

● 2022 北海道エンデューロ選手権シリーズ第6戦 栗丘大会 情報

<https://www.mfj.or.jp/local/2022-ed-hokkaido/rd6/>



公式通知 0916-1

大会組織

主催	MFJ 北海道エンデューロ部会	
後援	留寿都村	
運営	日高 MC、モトライフ、ビッグヘア	

大会顧問	佐藤ひさ子	留寿都村 村長
審査委員長	石井正義	MFJ 関東
審査委員	平野邦泰	MFJ 北海道エンデューロ部会長
審査委員	吉田孝	MFJ 北海道エンデューロ部会
競技監督	春木久史	日高モーターサイクリストクラブ
事務局長	塚田晃尚	日高モーターサイクリストクラブ
監修長	源治篤	モトライフ
車検長	藤井秀之	MFJ 北海道エンデューロ部会
計時長	脇田哲志	ワキタソフト
コース長	田岸進	モトライフ